



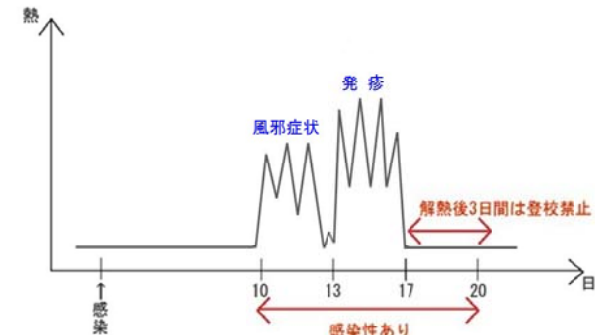
健康最前線

テーマ
麻疹

発行：土川内科小児科
本社：横浜250の3
0243-22-6688
発行責任者：土川研也

◆東京を中心として、高校や大学、成人の間で麻疹（はしか）が流行し、一流新聞の社説でも取り上げるほど注目されています。そこで、今回は麻疹についてまとめてみました。

◆麻疹とは、麻疹ウイルスによる感染症です。感染力が非常に強く（空中に浮遊している時間が長い）、その感染力はインフルエンザ以上）抗体を持っていない人では麻疹に罹患した方と接触するとほぼ100%発症します。麻疹は発症後、診断が確定するまでに3日前後かかりますので、麻疹を発症したと気づかず接触して感染が拡大していきます（右図参照）。また、麻疹では約30%に肺炎や中耳炎などの合併症が出現し、1998～1999年の沖縄の流行では約2000人が罹患し8人が死亡しています。修学旅行先で罹患し、亡くなった福島県浜通りの中学生のニュースはまだ記憶に新しいところです。



◆麻疹ワクチンの効果 日本で使用されている麻疹ワクチンは非常に優秀で、その効果は95%以上と考えられています。数%の確率で、ワクチンを接種しても十分な抗体が得られない事があります（一次ワクチン不全）が、ワクチンを接種していれば麻疹にはほぼ罹患しないと考えると良いと思います。しかし、麻疹のワクチン接種によって十分な抗体が獲得できても、その効果は次第に弱くなっていきます。通常は、麻疹ウイルスに時々接触する事で、その都度、麻疹に対する免疫がより強くなる（ブースター効果）のですが、麻疹の発生頻度が低下した近年では、ブースター効果が得られない

られておらず、今回の流行は2回接種の導入が遅れた厚生行政の不手際と非難されても反論はできないでしょう。

◆麻疹にかからない様にするには、まずは、乳幼児期にワクチンを接種することが最も大切な事です。最近では、公費で接種できる期間が大幅に狭められていますので、定められた期間に忘れずにワクチンの接種を受けてください。

接種歴(十)	比率
15歳: 7名中2名	=29%
16歳: 13名中5名	=38%
17歳: 11名中4名	=36%
18歳: 6名中3名	=50%
19歳: 17名中9名	=53%
20歳: 8名中3名	=38%
21歳: 5名中2名	=40%
22歳: 4名中2名	=50%
全体: 71名中30名	=42%

◆日本の麻疹発生状況とワクチン接種法の改正 2001年の全国的な流行以降、麻疹ワクチンキャンペーンの効果により患者報告数は激減し、2004年以降はすべての都道府県で大きな流行は認められなかった事から、今回の流行の様子に、麻疹ワクチンの1回接種では二次ワクチン不全のために麻疹にかかってしまう事が防げないため、2006年から日本でも欧米にならい、乳幼児と小学校入学前の2回、ワクチンを接種する事に改められました。しかし、2回接種以前の年代のお子さん（小学生、大学生まで幅広く存在します）に対する対策は何もと

次、乳幼児を除き、どんな人がワクチンを受ければ良いのかについては、実際に麻疹にかかった事が明らかでない人は、強い免疫を持っていないので、予防接種は不要です。ただし、麻疹と風疹（3日はしか）を混同している方がいますので、不確実な場合には後述する抗体測定が必要です。

◆緊急の対策 麻疹にかかったことが無く、一度も予防接種も受けていない人でも、麻疹患者に接触したら、直ちに（遅くとも72時間以内）緊急予防接種を受ける事で発症を防ぐ事ができる事が知られています。この間にワクチンの入手が非常に難しい状況もありえますので、やはり普段から十分な備えをしておく事が大切です。

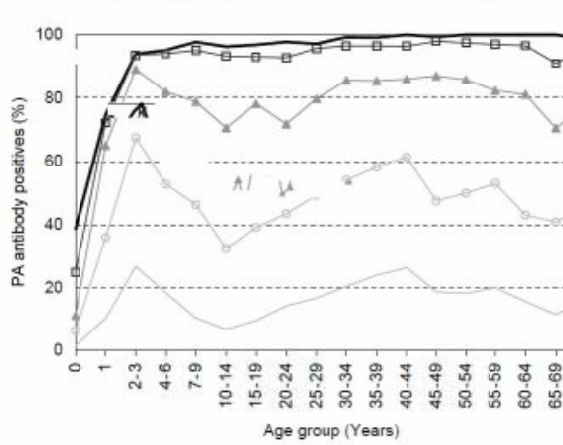
◆1歳未満の場合 乳児のお母さんからもらった免疫は徐々に減ります。免疫の残り具合は人により異なり、6～8ヶ月では10人中6人、11ヶ月では10人中9人で感染すれば発症します。流行の状態により場所が、お住まいの地域で麻疹流行している場合には、9ヶ月以上の子は受けたほうがよいでしょう。6～8ヶ月は身近に麻疹発生の情報を知っている人は、できれば接種していただく方が良いでしょう。ただし1歳未満の接種は任意接種となり、1歳後に再度定期接種を受ける必要があります（1歳未満での接種では、抗体価が長期間維持されないためです）。

◆その他の注意点 なお、過去にかかった人や既に感染している人が予防接種をしても、問題はありませぬ。また、6ヶ月未満には予防接種の適応はありません。

◆麻疹に対する免疫の有無 予防接種を受けたかどうか、麻疹にかかったかどうかはつきりしないという方が、麻疹に対する免疫を有するか否かは、血液検査で抗体を測定する必要があります。抗体検査は自費診療となりますので、各医療機関にお問い合わせください。

られておらず、今回の流行は2回接種の導入が遅れた厚生行政の不手際と非難されても反論はできないでしょう。

図2. 年齢群別麻疹PA抗体保有状況, 2004年
Fig. 2 Age group distribution of measles PA antibody positives, 2004



※この情報紙のバックナンバーをご希望の方は受付までどうぞ。